

日本あちこち河川遡行記（第 251 回）

奈良-1. 大和川（その 1） 平成 30 年 12 月 19 日（水）晴一時曇り

鳥取県日野川を暫し置いておいて大和川の奈良県の遡行を継続する。18 切符の最大効用が発揮できる遠方に的を変える。網干、大阪、久宝寺と乗り継ぎ前回の折り返し点の関西線「三郷」駅に 10 時 42 分到着。4 時間の乗車である。駅前の道を東に向かう。1km ほど進むと最初の橋「神前橋」に着く。橋の上から上流側を見ると、左側から支流の「葛下川」が合流している。大和川が奈良盆地から山峡を抜ける手前には盆地内の全ての支流が集まってくる。その最初の川がこの川である。



01.奈良盆地最初の支流「葛下川」（右）が合流

川は王寺町の北端部を大きく回り込んで流れている。この半円の上に JR 関西線、和歌山線、近鉄生駒線・田原本線が集まっている。かつて東京発湊町行き夜行急行「大和」の編成の中の 1 両がここで切り離され和歌山線を和歌山市まで走っていた。東京から本州、九州の山口を除くすべての県庁所在地に直通列車を走らすための 1 両であった。米原と同じような鉄道の町である。

本川の右岸側を歩き、「多聞橋」を渡り左岸側を進むと近鉄生駒線の鉄橋に差し掛かる。踏切から線路を見ると、鉄路は単線であるが橋脚は複線分の幅が有る。戦時中の鉄回収のため撤去させられたのだろう。

川の中央が町境で彼方三郷町、此方王寺町である。奈良盆地の川が全員集合する地域には狭い多くの町が平成の合併は何のそのと独立を守っている。生駒郡は平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町、磯城郡は川西町、三宅町、田原本町、北葛城郡は上牧町、王寺町、河合町、広陵町と何と 11 もの町がひしめき合っている。その合計面積はわずか 82.4km²。人口は 219 千人と多い。ほぼ同じ面積の天理市の人口が 65 千人なので鼻息が荒い。いずれも盆地の平地部にあり、近鉄や JR で大阪に近く人口が多いことが幸いしているようだ。

県道の「明治橋」を見て「多聞橋」と瓜二つの「若草橋」を見る。塗色は当然若草色しかないでしょう。北西部には今まで何度も見てきた生駒山が見えるいつかはあの山に「行こまー（岡山弁）」。



02.近鉄生駒線はかつて複線だったのだ 03.若草橋の彼方に生駒山が

昼前となり、町の中心の王寺駅が近いので遡行を中断し南の駅の方に向かう。足元のマンホールの絵柄には「和の鐘」と書かれた時計台が挿入されている。「和を以て貴しとなす」、王寺町は聖徳太子と縁が有りそうだ。



04.王寺町の絵柄は時計台

JRの王寺駅はペDESTリアンデッキに隠れて目立たない。北口の西には近鉄生駒線の「王寺駅」が、反対の東側には田原本線の「新王寺駅」が分かれて対面している。田原本線はここ新王寺駅と橿原線の田原本駅から少し離れた「西田原本駅」を結ぶ営業上は全く他線と繋がっていない独立線である。車両は橿原線との間の渡線で搬入されている。近鉄には橿原線と大阪線、大阪線と名古屋線などとの間に渡線の有る面白い私鉄である。多くの私鉄を吸収合併し

てきた近鉄の面目躍如の王寺駅である。奈良盆地は近鉄王国の平野で近鉄平野と言える。おかげで奈良県は東京、大阪などと同じく鉄道は全線電化されている。



05. JR 王寺駅は二階に



06. 近鉄生駒線の王寺駅は西側に



07. 反対側には近鉄田原本線の新王寺駅が



08. 田原本線は完全独立線だ

駅横に吉野家が有ったので飛び込んで久しぶりの安くて美味しい牛井をかきこむ。遡行にとっては有難い遡行の昼飯である。20分の休憩後遡行を再開し川に向かう。

駅前の大型商業施設の前に町のゆるキャラの「雪丸」の石像が立っている。雪丸は聖徳太子の愛犬だったとの言われがあり、太子ゆかりの「達磨寺」にはオリジナルの雪丸の石像が有ることを観光協会のHPで知る。忠犬ハチ公以上の扱いである。



09.町のゆるキャラ「雪丸」が駅前に

9-1.雪丸（聖徳太子の愛犬）石像
（王寺町内達磨寺）

次の国道25号の「昭和橋」に向かう街中の道の歩道には30mほどの間隔で動物（らしき）石像とその横に石のベンチが置かれている。この動物たちはどのような経緯から置かれるようになったのかな？境港市の妖怪ストリートを想いだす。



10.駅北側の道路には各種生き物像と椅子が

「昭和橋」の接手は今や珍しいリベットである。桁の中央部の下部に補強のための水平スチフナーが組み込まれているのも珍しい。今は制作加工手間を減らすために部材寸法を大きくしてシンプルな構造にしているが、昔は鋼重を減らすことが至上だった。橋の手前は王寺町、向こう側の西側は三郷町、東側は「斑鳩町」で、橋が3町の境界になっている。三国山と一緒にやー。



11.珍しい水平スチフナー（補強材）が入っているぞ

左岸側の土手沿いの道を東に進むと関西本線が近づいてくる。丘陵部の裾を通過し平野部に入る。東の彼方には盆地の東に連なる「笠置山地」の高さが同じ山が延々と続いている。奈良盆地は東西 15km、南北 30kmの大きく平坦な盆地である。「河合町」に入るとすぐに北側から紅葉と和歌で有名な「竜田川」が合流してくる。近鉄生駒線はこの川に沿って生駒まで走っている。



12.東の彼方には笠置山地が連なる 13.北から紅葉と歌枕で有名な竜田川が合流

関西本線が第一大和川橋梁を越えて奈良を目指し袂を分かち。東から一旦南に進むと潜水橋が現れる。大和にも潜水橋が有るのだ。橋の北側の堤防の方が南側よりも低く、増水時には注意するようとの看板が立っている。川は再び東からの流れとなり南から「佐味田川」が合流している。



14.大和川にも潜水橋が有ったんだ



15.南から「佐味田川」が合流



16.堤防は左岸側の方が高く造られているのだ

「泉台」の一戸建て住宅団地部には歩道が無いので団地の中の道を歩く。1.5 kmほど歩くと県道5号の「御幸大橋」に着く。橋の手前の道路沿いには大和川の水質保全のための対策についての解説板が有る。橋は一見普通の単純桁橋に見えるが、よく見ると橋脚上に支承が一つしかない。一つなら連続桁だが違う片方の桁を半分の高さにしてその上に隣の半分の高さの桁を乗つけた珍しい桁である。ゲルバー桁を真似た狡いやり方だな。



17.盆地内の川は全員集合！

18.上下二段の支承で橋脚幅を狭くしたな

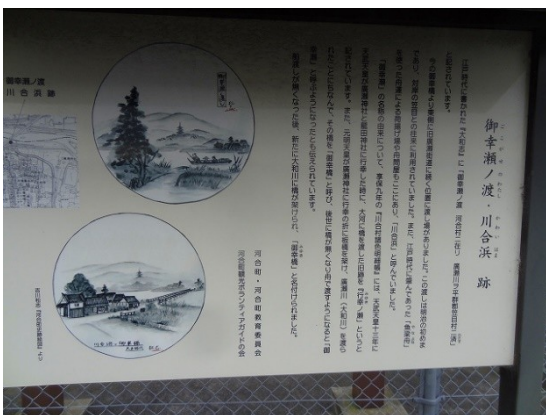
北側から「富雄川」が合流してくる。奈良盆地に西から迫り出している丘陵の間から流れてきている。

「御幸橋」の袂には天皇の行幸と川越の歴史が書かれた解説板が建っている。さすが大和である。大和の盆地の南端と北端に都が置かれたのも納得できる盆地と川である。



19.今度は北から「富雄川」が合流する

20.この辺りは川と狭い町が密集している



21.「御幸橋」の袂には行幸の歴史が

御幸橋を渡り左岸から右岸側に移り「安堵町」に入る。西名阪自動車道の橋を潜ると南から「曾我川」が続いてやはり南から「飛鳥川」が合流している。次から次と川が合流してくる。川の上流部を見ると大和三山の「畝傍山」

(H=198m) と思しき山が見える。あの山の北側には「神武天皇陵」が南側には「橿原神宮」が有るのだ。



22.南から「曾我川」(右側)が合流



23.飛鳥川の彼方に大和三山の「畝傍山」が見える

東からの流れが北東からの流れとなり 1kmほど進むと東から「寺川」が合流してくる。



24.次には「寺川」が合流

合流点の上流部の橋を渡り再度左岸側の土手道を進む。川西町に入る。今日5番目の町である。県道108号の橋から東を見ると真打の「佐保川」が北東からこちらが本流だぞという顔をして流れてくる。県都奈良から流れて来ているんだぞ！本流との間の三角部には大規模な污水处理場が有る。川沿いの鬱蒼と茂った木々に囲まれてそれらしき施設には見えない。

施設沿いの自転車道を東に進むと国管理区間の終わりを示す標柱が有る。



25.本命「佐保川」(左)が合流、間に大規模下水処理場が



26.ここが国と県との管理境

近鉄橿原線の橋を遠くから見て、施設の東端の道を北に進み「ファミリーパーク前」なる長い名前の駅に向かう。施設の東側は駅名通りの公園である。駅から西大寺経由鶴橋に向かうか、大和八木経由で鶴橋に向かうか考え、乗り継いだ後の電車の本数を考え西大寺経由として帰路に着く。大和西大寺、鶴橋大阪、姫路、赤穂と乗り継ぎ西に4時間以上の帰路である。よく歩いたなー。次回は奈良盆地を斜めに横断するぞ。

本日の歩行距離：13.4km。調査した橋の数：19。

総歩行距離：10,219.3km。総調査橋数：12,747。

使用した1/25,000地形図:「信貴山」(和歌山5号-1)、「大和郡山」(和歌山1号-3)